

幡多廃寺塔跡(岡山市)

幡多廃寺塔跡に立っていた説明板/このエリアは古代吉備の豪族であった上道氏の氏寺跡で、岡山県下最大という巨大な塔の礎石(心礎)が現存している

国指定史跡

は た はい じ とう あと 幡多廃寺塔跡

昭和19年11月7日指定

現在残されている巨石は、古代寺院跡の塔心礎で、県下最大級の大きさである。
心礎中央部に^{えく}抉られた六角形のくぼみは、塔の芯柱を立てた^{ほぞあな}梢孔で、その中心の深い穴は^{ぶっしゃり}仏舍利を納めるためのもの。

有力な豪族であった上道氏の拠点に位置し、岡山平野でも有数の古代寺院跡である。昭和47・48年度(1972・73)に塔心礎を中心とした発掘調査が行われ、^{かいろう ついじ}回廊・^{なんだいもん}築地・塔・^{なんだいもん}講堂・南大門・中門・北門等の基礎と想定される遺構が検出され、^{がらん}伽藍の配置が復元されているが、未確定である。

出土瓦等から、^{はくほう}白鳳時代後葉から平安時代後葉まで存立していたと想定されており、^{だんじょうづみきだん}賞田廃寺跡と同様、凝灰岩製檀上積基壇の石材と想定される部材も出土している。そのほか、奈良三彩片、須恵器・土師器容器が出土している。

下層には弥生時代の住居や墓も検出された。

平成22年3月

岡山市教育委員

幡多廃寺跡から出土した代表的瓦

白鳳時代(7世紀末) 原形最大
奈良時代(8世紀中頃)
奈良時代末~平安時代(9世紀末~9世紀)

これが塔心礎/心礎は長径2.6m・短径2.1mの花崗岩製/心礎の表面には被熱痕があり、火災によって塔が倒壊した可能性が推測されている/飛鳥時代後期(7世紀後半)に創建され、奈良時代に最盛期を迎え、平安時代後期(11世紀)には廃寺になったと云う



いやはや、こんな住宅地にポツンと残されているものだ



それにしても巨大だ

[video](#)



南から、南大門・中門・塔・金堂・北門が一直線上に並び、講堂が脇に建っている/周辺には備前国府跡・賞田廃寺跡・居都廃寺跡もあって、古代の備前国の中心だったらしい



参考ホームページ

<https://tabi-mag.jp/ok0289/>

<https://www.city.okayama.jp/museum/kodai-jiin/06.html>

<https://tabioka.com/ruins-of-pagoda-hata-hajji/>

<https://blog.goo.ne.jp/rekishi-nazo/e/0a45c05fa20e690a9d77df2dfa69fd9f>

<https://sogensyooku.hatenablog.com/entry/2021/01/11/214308>

